

ランナー

山松 桂子

聖バルナバ病院

佐藤美春さんからのバトンを受け取りました。6月号執筆の大西さん、7月号の寺田さん、8月号の佐藤さん、そして後藤さんと私の5人は、月に1度厚生省看護研究研修センターの同窓会を開いています。忌憚のない会話は、日ごろのストレスを発散させ、助産婦である自分を振り返り、「これからも頑張ろう」という気持ちにさせてくれます。

さて、助産婦1年生の皆さん、仕事を始めてそろそろ半年になりますね。仕事には慣れましたか。きっと今皆さんが悩んでいること、ストレスに感じていることは、以前の私が感じていたことでもあると思います。自分を振り返るとともに、そんな皆さんにエールを送りたいと思います。

短距離ランナー

私が助産婦になって12年がたちます。就職したての病院勤務の頃の私は、まさしく短距離ランナーでした。勤務時間の始まりは「よいー、ドン」のピストルの合図です。助産行為だけではなく、細かい施設の約束事や業務内容、何も分からないから、とにかく必死でわき目も振らずに動き回るしかない毎日の繰り返しでした。周りからは、落ち着きがなく、要領が悪いと見えていたことでしょう。先輩から、「どうしてあなたが今帰って来た部屋から、ナースコールが鳴ってくるの。他の人の様子も見て来なさい」と注意を受けたこともありました。本当に1つのことしか見えていなかったな、という苦い思い出です。もっと肩の力を抜いたら、余分な労力を使わずにスマートに走ることができたはずです。ただドタバタとゴールに

駆け込んでも、乾いた汗と疲れだけが残し、走行中にだれに会ったのか、横に何があったのか、振り返りのできない毎日の繰り返しでした。

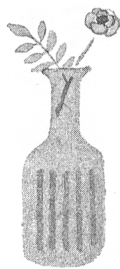
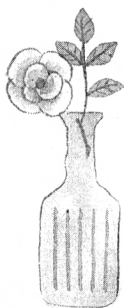
新人の方々は「どうしてこんなことまで私たちがやらなければならないの」、そう思っていることはありませんか。それは他の職種の人と話し合っていて、良い方法を取ってください。ただし、今は私たちがやらなければ、恐らく産婦に迷惑のしかる結果になると思います。ですから話し合いができるまでは、どうかその仕事を快く引き受けてください。知らないよりは知っているほうが、できることが多いほうが、今後の強みになります。

職場の人間関係で悩んでいる人はいませんか。何の仕事も同じでしょうが、病院という組織の中では、まず「仕事ができる」ということがチームワークの大前提となります。な・あ・な・あ・の友達感覚の付き合いでは成り立ちません。助産技術の上達には時間がかかることがあります。細かい施設内の約束事や業務内容は、努力してできるだけ早く覚えてしましましょう。そうすることで自分に余裕が持てるようになります。

同じ短距離ランナーでも、ゴール(就業時間の終わり)が終わりではありません。次のスタートのために振り返れる走り方をしましょう。

長距離ランナー

私は就職して9年が経った年に、助産婦学校の教員になりました。365日、24時間走り続ける長距離ランナーのスタートです。教育は子育てと似ていると思いました。やってもやっても満足のい



Toshiko

かない、もっと別の良いことがあるのではと思えてきます。そして、結果がすぐに見えない。長距離ランナーは、いつも全速力で走っていては疲れてしまいます。自分のペースと走行路の状況に合わせて速度を調節します。ゴールを目指して走るのではなく、走っている間の状況を楽しみます。

私は、教育現場で「人は自分が見たようになる」ということを痛感しました。マイナスイメージで見えてしまうと、学生は本当にそのようになってしまいます。その人の長所を見つけ、より良く伸ばすことが大切です。これを実践することは非常に努力がいることです。エーブ・ワグナーのマネジメントの心理学の中にある効果的な管理者の条件15カ条に「他人に対して肯定的な態度をとり、すべての人は固有の価値と尊厳を持つと信じている」という項目があります。学生の教育だけでなく、職場の卒後教育にも当てはまることです。一様の育成方法ではなく、個別にかかわっていくことが必要です。先輩の皆さん、温かく後輩を育てていきましょう。そして、新人ランナーの皆さんも1日も早く短距離ランナーから長距離ランナー(助産の継続ができる人)に転向しましょう。

長距離走には、一人で走り続けるもの、リレーのように何人かで走るものがあります。私たちは両方のランナーです。マザーテレサは「看護に携わる人は、仕事としてではなく、生き方として選んだのだと思いなさい」と言われています。両方のランナー役をやるときは、人生の終わりまでゴールのない長距離ランナーとして走り続けること、そして、進歩する医学・助産の中で先輩から受け

取ったバトンに自分たちの学んだことを加えて、さらにより良くして後輩にバトンタッチすることです。

ランナーのもう1つの意味

昨年参加した思春期保健セミナーで、フォークソングシンガーの高石ともやさんにお会いできました。高石さんの曲の中に「君はランナー」という曲があります。心がほっとして、元気になれる素敵な歌詞とメロディーです。もしご存知なければ一度聞いてみてください。歌詞のとおりではありませんが、「走って迎えた勝利の後には人はだれでもやさしくなることができる」という内容があります。人に対していつもやさしい気持ちで接することができるようになりたいものです。一生懸命に走って、やさしい人になりたいと思います。

私は昨年から助産婦学校の専任教員の任を離れ、臨床で主に学生指導にかかわっています。学生が助産をさせて頂いてよいかと産婦さんにお伺いしますと、ほとんどの方が快く了解して下さいます。まだスタートラインにも立っていないランナーを応援して下さいます。先日、分娩第1期を援助させていただいた方が、出産後にお礼の言葉と一緒に「学生の方に「赤ちゃんを見に来て下さい」って伝えて下さいね」と笑顔で話されました。学生時代は、ランナーとしての基礎作りの時間です。心・技・態の基礎をしっかりと学んで、来年の春にはスタートラインを越えて走り始めましょう。そして、一緒に走れる仲間をたくさん作りましょう。次のバトンを、林静子さんに渡します。